

季節的就労者からみる非定住・非定職の暮らし方に関する研究：
和歌山県梅農家・愛媛県みかん農家における季節的就労者を対象として

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻 公開日: 2023-04-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, はるな メールアドレス: 所属: 大阪市立大学
URL	https://ocu-omu.repo.nii.ac.jp/records/2011612

季節的就労者からみる非定住・非定職の暮らし方に関する研究

—和歌山県梅農家・愛媛県みかん農家における季節的就労者を対象として—

A STUDY ON NON-RESIDENT AND NON-OCCUPATION LIFESTYLES OF SEASONAL WORKERS

-TARGET OF SEASONAL WORKERS IN UME FARMS AT WAKAYAMA PREFECTURE AND MANDARIN FARMS AT EHIME PREFECTURE-

建築計画・構法分野 伊藤はるな

Architectural Planning & Building System Haruna ITO

近年定住の必要性が失われ、多拠点生活が注目されている。一般的とされる卒業後すぐ定職に就く以外の就労方法として本論文では季節的就労者に着目、各人生から物理的距離や精神的距離・移動理由、拠点や就労形態や経済性・人生観他聞き取り調査を行った。季節的就労者は休暇への概念が異なり収入でなく自身の幸せを第一に考える。また順応能力他グローバル人材となる可能性をはじめ定住・定職とは異なる季節的就労者の社会的・地域的価値、魅力的な地域の特徴を明らかにした。

In recent years, the need for permanent residence has been lost, and multi-location living has been attracting attention. In this paper, we focus on seasonal workers as a method of employment other than the usual one of finding a regular job immediately after graduation. We interviewed seasonal workers about their physical distance, mental distance, reasons for moving, location, working style, financial situation, and outlook on life. Seasonal workers have a different concept of vacation, putting their own happiness first, not income. We also clarified the social and regional values of seasonal workers and the characteristics of attractive regions, including their ability to adapt and their potential to become global human resources.

1. 序論

1-1. 研究背景・目的

日本では一般的とされる定住であるが、テレワーク普及により定住の必要性が失われたことでアドレスホッパー他非定住の暮らし方が注目されているが、エンジニア他定職の人も存在する。日本人の大多数が疑うことなく卒業後すぐ就職するものの定職以外にも数多くの暮らし方が存在することから本論文では特に「年間就業日数が200日未満で農繁盛期や盛漁期など特定の季節だけ仕事をしている場合と定義されている季節的就労(総務省：平成29年度就業構造基本調査より)」を行う非定住・非定職の暮らし方に着目する。

本論文にて過去/現在に日本/海外にて自身滞在地域以外の地域にて農業や観光業他の短期的な季節的就労・手伝い経験がある人を「季節的就労者」、賃金が発生する労働を「就労」、賃金が発生しない労働を「手伝い」と定義する。季節的就労は短期的な就労のため、季節的就労を主な収入源とした暮らし方や季節的就労以外を主な収入源としつつも短期間のみ季節的就労を

行う暮らし方他季節的就労への関わり方は様々である。

季節的就労者と関わる「季節的就労者受入地域・住民」を運営/経営者・仲介者・地域住民・地域外住民に分類、考察する。季節的就労方法として(1)直接運営/経営者と連絡(知人/仲間の紹介を含む)(2)運営/経営者登録のウェブサイトから申込(3)運営/経営者他が仲介者となり他運営/経営者を紹介が挙げられ、今後は運営/経営者個人での受入ではなく地域全体での受入体制が必須となる。季節的就労者は就労場所近辺に建物/部屋をもたないため提供建物/部屋も必要不可欠である。本論文では季節的就労者受入地域・住民に着目、季節的就労者の社会的・地域的価値他を明らかにする。

1-2. 研究の位置づけ

農耕技術を手に入れる約1万年前以前の主な生活方法は移動だった(渡部森哉：人類の定住に関する考察—物質文化との関係に着目して—,人類学研究所研究論集第7号,2019より)。人類は本来非定住だったこと、季節的就労者は地域と関わり方が多様であることから本論文では新たに「地域遍歴人口」を提案する(図1)。

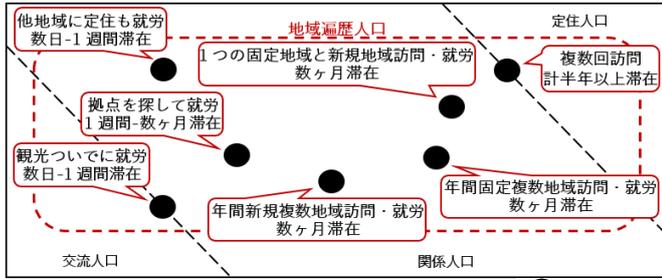


図1 地域遍歴人口

1-3. 研究概要

和歌山県みなべ町で出会った日本農業の未来を考える農家にて農繁盛期の 2022/6/6-20・2022/6/24-7/8 の約1ヶ月間、季節的就労を行いながら季節的就労者14名(表1)と手伝いに来ていた地域外住民10名に
対面・電話での聞き取り調査と書面質問、農繁盛期以外2022/9/9-13に和歌山県みなべ町・田辺市、2022/9/27-30に愛媛県八幡浜市を訪問、運営/経営者6名、仲介者1名、地域住民5名に
対面による聞き取り調査を実施した(表2)。和歌山県みなべ町・田辺市は数年前から愛媛県八幡浜市は20
数年前から季節的就労者を受入している季節的就労者受入地域・住民としての対応他を比較する。愛媛県八幡浜市では西宇和農業協同組合と八幡浜市市役所を訪問、農業協同組合他組織的な季節的就労者受入体制・廃校活用による提供建物/部屋確保方法他、利用までの経緯聴取や見学を行った。

表1 季節的就労者の特徴

海外就労・手伝い期間		特徴	
Sさん	43歳男性	5年以上	バックパッカー旅・スペイン山奥に10年滞在
Uさん	44歳男性	5年以上	鳶・溶接職人 来年は妻子供と季節的就労予定
Zさん	33歳女性		ヒッチハイクで日本→ノルウェー・炭焼き弟子
Jさん	36歳男性	1~4年	就労意欲は旅・数年間7カ月程同地域で就労
Wさん	36歳男性	1~4年	退職後3年間季節的就労にて全国周遊→就農
Yさん	33歳男性	1~4年	就労後に山奥の自身建築小屋にて人を遮断
Tさん	24歳男性	1年未満	建築大学院生・休学中に季節的就労
Oさん	32歳女性	1年未満	農業/作物・地域で数ヶ月暮らしへの興味
Mさん	28歳男性	or 無	結婚視野で定職も自身に合わず退職
Hさん	26歳女性	or 無	筋力・体力低下から太陽の下で就労希望
Gさん	28歳男性	or 無	顔面麻痺により退職・趣味豊富で探求心豊富
Kさん	29歳男性	or 無	数回正社員も退職・自身の武器を模索中
Aさん	27歳男性	or 無	舞台俳優になるべく退職・自給自足への興味
Iさん	26歳男性	or 無	元地域おこし協力隊・農業+観光を思考

表2 調査内容

取材対象者		取材内容	
季節的就労者		滞り場所・就労内容・拠点・人生感他	
季節的就労者	運営/経営者	募集方法・提供建物/部屋他	
	仲介者	経緯・応募方法・提供建物/部屋他	
	地域住民	暮らし方に対する意見など	
受入地域・住民		暮らし方に対する意見など	
		地域外住民	

2. 季節的就労者の暮らし方の分析

2-1. 海外就労・手伝い期間

季節的就労者を海外での就労・手伝い経験期間で分析した(表1)。長期間に渡る海外生活・経験により語学力・異文化理解の精神が身につけているといえる。また季節的就労は日本国内のみでなく世界各地で実施されている就労形態であり、数ヶ月の季節的就労によりワーキングホリデービザ延長可能な国が存在する他季節的就労は海外での就労形態の一つとなっている。

2-2. 物理的距離

これまでの世界・日本各地の訪問・就労地域を地図で示すことで行動範囲を明確にする(図2)。海外での就労は日本との物理的距離による言語・文化の違いがみられるが、日本とは異なる言語・文化・自然への興味から年単位での就労を行う場合がある。

2-3. 精神的距離・移動理由

本論文では初訪問/就労地域に知人・親戚が在住するまたは知人・仲間と共に向かう場合を精神的距離が近い、知人・親戚が在住しないまたは1人で向かう場合は精神的距離が遠いと定義する。精神的距離の多数を水色、そのうち興味・就労・趣味の中で最も強い要因と感じたいずれかに分析、多数を灰色で示す(表3)。また移動理由は同地域内や再訪問/就労地域であっても就労先が変更した場合も含むと定義する(表4)。

精神的距離が遠いが多数を占め、その中でも地域他興味が半数以上を占めた。言語/方言・文化の違いから精神的距離が近い方が訪問・就労の壁が低く感じられるが、それ以上に興味のある国/地域を訪問・就労する傾向にある。移動理由は知人他紹介と自ら申込が同割合を占め、中には同数の場合もある。過去訪問/就労地域住民他から連絡、就労のため移動もあり休暇時には趣味や友達訪問他を理由に移動する。様々な地域訪問、新たな環境への順応経験によりコミュニケーション能力向上、主体性・積極性が身につく。また季節的就労者独自のコミュニティに属している知人・仲間とは就労地域・趣味他で出会い、口コミで情報交換を行う。

表3 季節的就労者の精神的距離(回/回)

精神的距離	近い(知人・親戚在住○or知人・仲間○)						遠い(知人・親戚在住×or知人・仲間×)					
	地域他興味			就労目的			地域他興味			就労目的		
	興味	就労	趣味	合計	興味	就労	趣味	合計				
Sさん	16	5/16	0/16	0/16	5/16	10/16	1/16	0/16	0/16	11/16		
Uさん	9	2/9	4/9	0/9	6/9	2/9	1/9	0/9	3/9			
Zさん	10	0/10	0/10	0/10	0/10	10/10	0/10	0/10	10/10			
Jさん	10	0/10	0/10	0/10	0/10	3/10	4/10	3/10	10/10			
Wさん	11	0/11	0/11	0/11	0/11	10/11	1/11	0/11	11/11			
Yさん	8	0/8	2/8	0/8	2/8	2/8	3/8	0/8	5/8			
Tさん	10	1/10	0/10	0/10	1/10	9/10	0/10	0/10	9/10			
Hさん	10	2/10	0/10	0/10	2/10	2/10	6/10	0/10	8/10			
Oさん	6	1/6	1/6	0/6	2/6	3/6	1/6	0/6	4/6			
Kさん	6	0/6	2/6	0/6	2/6	1/6	3/6	0/6	4/6			
Mさん	4	0/4	0/4	0/4	0/4	3/4	1/4	0/4	4/4			
Gさん	6	2/6	4/6	0/6	6/6	0/5	0/5	0/5	0/5			
Iさん	3	0/3	0/3	0/3	0/3	2/3	1/3	0/3	3/3			
Aさん	1	0/1	0/1	0/1	0/1	1/1	0/1	0/1	1/1			
計	0/14名	2/14名	0/14名	2/14名	8/14名	4/14名	0/14名	0/14名	12/14名			

表4 季節的就労者の移動理由(回/回)

移動理由	知人他紹介	自ら申込	過去訪問/就労地域住民他から連絡	その他
Sさん	95	50/95	19/95	0/95
Uさん	17	9/17	1/17	0/17
Zさん	31	10/31	16/31	0/31
Jさん	49	15/49	20/49	5/49
Wさん	25	4/25	6/25	1/25
Yさん	23	11/23	6/23	3/23
Tさん	20	6/20	2/20	0/20
Hさん	25	11/25	11/25	3/25
Oさん	11	5/11	6/11	0/11
Kさん	21	9/21	9/21	3/21
Mさん	29	27/29	2/29	0/29
Gさん	14	11/14	2/14	0/14
Iさん	12	5/12	7/12	0/12
Aさん	10	0/10	10/10	0/10
計	7/14名	7/14名	0/14名	2/14名

Mさん

興味 趣味(絵・踊り) 収入を求めない

YouTube 広告ナレーション
仮歌・歌入れのアルバイト

季節的就労者のパートナー
(30歳後半)と同居

就労 体力・筋力低下を実感
↓
散歩でも回復不可
太陽と共に体を動かす
就労に興味

Gさん

就労 興味をとことん追求 → 派生

人生楽しそうな人との
出会い・話聞くのが好き
↓
人生の参考

就労 定職の大人が楽しくなさそう
↓
自身の将来に不安
大人の常識への疑問

就労 何をしている時が楽しいかは
一生のテーマ

Kさん

興味 様々な経験から
自身の武器を探し中

将来への備えく吸収したい
自身が何をしたいか
好きなものを伸ばす

就労 まず自身を豊かにしたい
就労だけが生きがいではない

就労 お世話になった人に対して
恩返し方法模索中

就労 地域住民の雰囲気・地域柄が好き
訪問は会いたい人がいるから
その人が好きな地域は自身も好き

Aさん

定職＝王道な生き方 定職以外＝王道ではない生き方
↓
様々な人との出会いより王道でない生き方への抵抗無

興味 現在地元で転職活動中
社会に馴染めない人の居場所づくり
福祉施設 or 農家(人手不足×福祉)

Iさん

観光+農業の企画経験有

ふるさとワーキングホリデー(地域魅力発見・移住への第一歩)
ムラ暮らしインター(農村漁村就労/生活体験・移住への第一歩)
参加経験有

興味 気分転換
地域住民/食べ物と触れ合う
↓
1年1回以上季節的就労予定

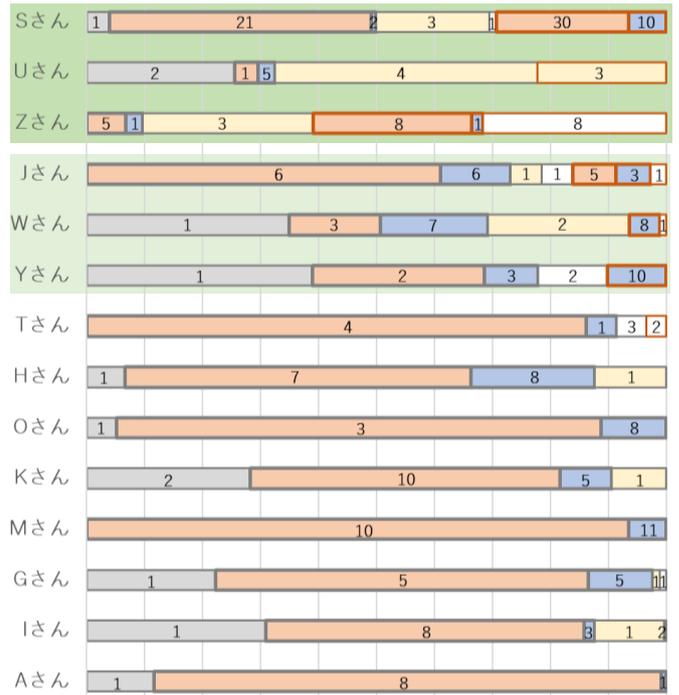
就労		その他	
★ 季節的就労	● 誕生~学生時代	◇ 旅・娯楽・ヒッチハイク・拠点他	◇ その他
☆ ワーキングホリデー			
☆ その他就労			

図2 季節的就労者の物理的距離・精神的距離

2-4. 就労形態

季節的就労者のこれまでの人生において、掛け持ちを含む各就労形態での就労期間を色別、各就労形態での就労数(同就労先は含まない)を数字で示す(図3)。生活や上司と不適合による鬱発症の消極的な退職、自

身の人生を考えて積極的な退職他、定職は収入安定している一方で窮屈に感じる例もみられた。季節的就労は単純作業も多く、言語が流暢でなくとも支障がなく人手が必要な作業のため海外での就労方法となる。また定職経験者も存在したが収入に対する執着がなく、最低限の生活のため季節的就労・アルバイト就労を行うという共通点がみられた。また建物/部屋・食事提供の見返りに手伝いを行うことは初訪問地域や資金枯渇時の生き延びる術として使われている。これらの経験から新たな環境への順応能力・コミュニケーション能力、自身の意志・判断による主体性・積極性が身につく。



- 日本(正社員)
- 日本(アルバイト就労)
- 日本(季節的就労)
- 日本(その他)
- 日本(手伝い: おてつたび他含む)
- 海外(正社員)
- 海外(アルバイト就労)
- 海外(季節的就労)
- 海外(その他)
- 海外(手伝い: WWOOF他含む)

図3 季節的就労者の就労形態と各就労形態での就労数

2-5. 休暇

定職では週休2日だが季節的就労は1ヶ月間休暇無の場合もある。また定職では年末年始やお盆他1週間程の休暇があるものの長期休暇を得ることは困難だが、季節的就労者は自身で就労・休暇選択が可能のため長期休暇や休暇無での就労継続も本人の希望次第である。労働力確保のため雇用・収入確保のため就労であることは事実だが、就労に求めることは各々で異なるため事前に就労理由他を聞く必要がある。また休暇中であっても資金枯渇他により数日間就労を行う場合もみられ、就労・休暇の線引きが定職よりあいまいである。



写真1 季節的就労作業内容 梅(和歌山県みなべ町)

2-6. 季節的就労者受入地域・住民との関わり

再訪問・移住の決め手は地域住民の人柄・親切さである。農繁盛期後季節的就労者は移動するため事前準備が必要なイベントは難しいが、日常の延長上のBBQ・宴会他であれば地域と関わる余地はある。運営/経営者のため仕方なく他消極的な人や地域住民と繋がりたい他積極的な人他、季節的就労者により参加意欲は様々であるが、季節的就労者と地域住民の関わりは地域に新風をもたらす可能性を秘めている。

2-7. 経済性・人生観

季節的就労は自然・農業への興味、数ヶ月間の地域/田舎滞在、旅行・観光欲求を満たすと共に様々な地域を遍歴しながら地域住民の人柄・雰囲気愛着を感じる地域を活動拠点や居場所をとすべく模索している。生活のための就労ではなく旅・趣味他自身の興味あることを行うための就労であり、人生想定が最長数年である。人生選択では楽しいこと・自身への理解を深めて心が豊かになることが大切であることから自身の幸せを第一に考えていることがわかる。また定職は同時同曜日就労のため自由な移動・休暇が難しく時間確保への焦りから将来が不安だったが、季節的就労は自身で時間確保できることから不安がなくなった例や人との出会いにより自身以外が将来に関わることに對する楽しさを感じる例もある。収入のための就労は収入が必要な生活になってしまうが、収入が少なくても工夫次第で豊かな生活が可能であり、満足度も高い。

2-8. 両親/親戚他からの理解/反応

両親他の賛成は珍しく定住・定職を希望する意見が過半数を占めた。考えが衝突しながらも自身の暮らし方に対して理解を得たり、収穫作物を送る他を通して10年程の音信不通から交流が再開した例もみられた。

2-9. 実家との関係

季節的就労者14名は現在の住所・住民票として実家や実家譲渡・両親他所有/借用が半数を占める(表5)。Jさんは実家が市営住宅かつ関係複雑化から拠点の地元ゲストハウスに住民票移動・実家転送、Gさんは祖父所有倉庫に住所を置いている。

2-10. 活動拠点

現在就農・炭焼き職人・復学他により定住した季節的就労者は水色で示す(表6)。現在定住していない季節的就労者には実家や実家譲渡・両親他所有を拠点とする人が多い傾向にある。Jさんは拠点地域の地元のゲストハウスに宿泊料を支払い滞在、Wさんは現在定住しており季節的就労が期間限定のため拠点地域がなく自家用車が拠点であった。またYさんの拠点は住所・住民票を置く山奥の自作小屋、Mさんの拠点は住所・住民票を置く元旅館で季節的就労者のパートナーと共に借用・改修工事、Iさん・Aさんは現在定住のた

め拠点は住所・住民票を置く賃貸(アパート)である。

表5 季節的就労者と住所・住民票

住所 住民票	実家 (両親在住)		実家譲渡 両親所有/借用		自ら借用他		その他	
	住所	住民票	住所	住民票	住所	住民票	住所	住民票
Sさん			○	○				
Uさん			○	○				
Zさん	○	○						
Jさん							○	○
Wさん					○	○		
Yさん					○	○		
Tさん		○	○					
Hさん	○	○						
Oさん			○	○				
Kさん	○	○						
Mさん					○	○		
Gさん		○					○	
Iさん					○	○		
Aさん					○	○		
計	4/14名	5/14名	4/14名	3/14名	5/14名	5/14名	2/14名	1/14名

表6 季節的就労者の活動拠点

活動拠点	現在定住	拠点地域有		拠点地域無
		拠点建物/部屋有	拠点建物/部屋無	
Sさん		譲渡実家		
Uさん		譲渡実家		
Zさん	実家	実家		
Jさん			元ゲストハウス	
Wさん	一戸建購入			自家用車
Yさん		自身建築小屋		
Tさん	両親借用	実家・両親借用		
Hさん		実家		
Oさん		両親借用		
Kさん		実家		
Mさん		元旅館(自身他で改修)		
Gさん		実家・祖父所有倉庫		
Iさん	賃貸(アパート)	賃貸(アパート)		
Aさん	賃貸(アパート)	賃貸(アパート)		
計	5/14名	12/14名	1/14名	1/14名

2-11. 小括

季節的就労者の暮らし方は様々であるが、暮らし方への考え方は自身の幸せを第一に考えているという点で共通している。また現在定住していない季節的就労者には実家や実家譲渡・両親他所有を拠点とする人が多い傾向にあるが、両親他から理解がない状況でも収入・就労先での提供建物/部屋による拠点必要性への疑問からこのような状況になっていると考える。

3. 季節的就労者受入地域・住民

3-1. 季節的就労者受入地域の受入体制

和歌山県みなべ町・田辺市では運営/経営者が個人的に雇用、季節的就労者の多くが20-40代男性である。

愛媛県八幡浜市では1994年頃から愛媛県八幡浜市真穴地区運営/経営者が真穴みかんの里雇用促進協議会を発足、ホームステイしていた。しかし廃校活用には運営/経営者全員が季節的就労者受入可能である必要があったため合体する形で2014年3月に無料職業紹介事業として農業協同組合が西宇和みかん支援隊を設立、各地区リーダーと農業協同組合が連携して季節的就労者の受入を開始した。季節的就労者は多様な年代が存在、女性も多く、地域全体で訪問・就労に対して感謝・歓迎を大切に、就労期間以外も実行している。

3-2. 季節的就労者受入地域の提供建物/部屋

和歌山県みなべ町・田辺市では自宅を提供できないため近隣の旅館やホテルを借用・提供している。2022年農繁盛期には使わなくなった保育園を実験的活用も管理者や清掃、利用方法他様々な問題が浮上、広空間であっても空間の一部のみの利用であった。

愛媛県八幡浜市では2015年11月から季節的就労者の提供建物/部屋として廃校活用したみかんの里宿泊・合宿施設マンダリンは農業協同組合が宿泊業・飲食業許可取得・年間借用・管理・運営、農繁盛期には職員が寝泊り・見回り、地域住民数名が手作りの食事・提供・清掃を行うものの、廊下に清掃道具を置くことで各自清掃も可能である(写真3)。また2019年11月から廃校活用したシェアハウス長谷は山奥集落で高野地雇用促進協議会が管理・運営、確保した市の予算にてより良い環境提供のため季節的就労者の意見を取り入れ、毎年改善している(写真4)。食事は農家負担の弁当や代金支給、清掃内容・役割をホワイトボードに記入、各自行う。これらの成功例から地域住民が空き家・廃園活用に積極的になり、市は資金を確保した。



4. 結論

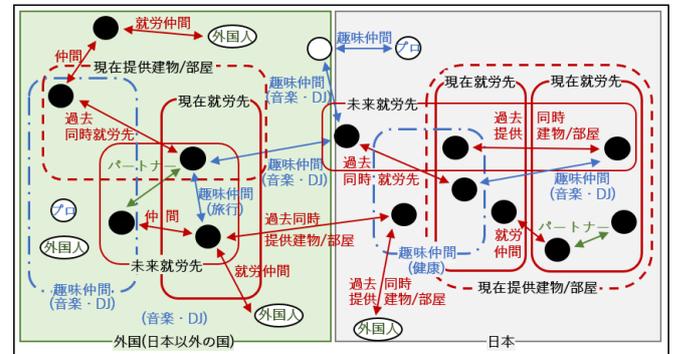
4-1. 季節的就労者の社会的価値

定職では数十年先の人生想定することに対して季節的就労者は数ヶ月、長くて数年先までの人生想定であり、休暇に対する概念も異なる。収入ではなく暮らし方の工夫により自身の幸せを第一に、様々な地域・環境での多様な職種の就労経験により新たな環境への順応能力が備わり、豊富な引き出しにより自身の多様化・選択幅を広げている。

短期間ごとの様々な地域遍歴により自身の興味欲・旅欲を解消している。グローバル人材は「日本人としてのアイデンティティや日本の文化に対する深い理解を前提として、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付け

て様々な分野で活躍できる人材(文部科学省:第2期教育振興基本計画より)」と定義されており、様々な国/地域での就労経験を通じて得た語学力・コミュニケーション能力、自身の意志・判断により様々な国/地域にて就労を行う主体性・積極性、経験により異文化への抵抗がなく異文化理解の精神が養われているため、季節的就労者はグローバル人材になる可能性を秘めている。また技能実習生他に対して日本文化や礼儀作法を教える他経験を生かすことが可能である。

季節的就労者が形成する独自のコミュニティは就労地域や提供建物/部屋、趣味やパートナー関係他様々な出会いをきっかけに各々がそれぞれ繋がる。コミュニティ内の人脈をたどれば日本国内にとどまらず、趣味のプロの方や外国人にも繋がるためコミュニティの可能性は無限である(図4)。また口コミでの地域/人の紹介は信頼度が高いため身の安全を確保する手段として有力なことから就労地域他の重要決定要素となる。



●: 季節的就労者 ○: 季節的就労者以外 ←→: 繋がり □□□: コミュニティ
図4 季節的就労者独自のコミュニティ イメージ図

4-2. 季節的就労者の地域的価値と魅力的な地域の特徴

季節的就労者は様々な地域遍歴により定住に比べて様々な地域に関する情報をもっているため地域遍歴人口は地域に新風をもたらすことができる。知人/親戚の有無に関わらず自身が興味をもった国・地域を訪問・就労するため、魅力的な地域にすることが季節的就労者募集の近道であり、「おもてなし・感謝の心」「提供建物/部屋」が共通している。おもてなしは「いかに地域住民に親切にしてもらったか」であり、季節的就労者の意見を取り入れた建物/部屋の改善や BBQ・宴会、手作り食事他、交通費や賞与の場合もある。また農繁盛期だが適度な休暇での体力回復・地域観光他により地域との関係構築・魅力認知にて技術をもつ季節的就労者雇用が可能となる。提供建物/部屋としてコミュニケーションできる大広間他が完備、カーテン他簡易的でもプライバシー確保ができる環境が必須である。また定期的な清掃または掃除道具の準備も大切な要素である。規則がある場合でも管理者は必要だが、年配季節的就労者が集団の監視役となり平和・安全に尽力している場合もみられた。また滞在は数ヶ月のため年残りの10ヶ月程の活用方法を模索する必要がある。